



「わくわく」夏休み 小さいことを大事に!

さて、いよいよ今日で1学期を終え、明日から夏休みになります。今日の終業式で、私から子供たちに次のような話をしました。先ず、ラグビー日本代表の流 大(ながれ ゆたか)選手のことを紹介しました。流選手は、前回の日本大会でも日本チームを初のベスト8に導いた人です。久留米市で生まれ、9歳からラグビーを始め、荒尾高校に進学。主将として花園に2年連続出場しました。帝京大学でも主将として、大学選手権6連覇に導き、東京サントリーサンゴリアスでも主将として2年連続2冠に導きました。その流選手の口癖が「小さいことを大事にしよう」です。この小さな事とは、

「例えばトイレのスリッパを並べることや、道のゴミを拾うことを、一番大事にしています。見えないところの努力があって初めて、チームはよくなっていく。もちろん練習も同じです。小さな生活の実践が、実際のゲームとつながっています。」ということです。

そこで、夏休みのめあての大切さを伝えました。めあてや目標がないと、真っ暗闇の中を歩いているのと同じで、めあてや目標があるからこそ、暗闇中を照らす道標になることを伝えました。さらに、日常の小さなことを大事にすることで、足元を照らす明かりとなり、よりめあてや目標が達成しやすくなるということを語りました。小さなことは、常に4つの心で見つめていくことでより大事にできると思います。夏休み期間中は、是非お子さんとめあてについて話し合わせ、声掛けと励ましをお願いします。

1学期を振り返って

1学期を振り返る作文発表は3年生の松山さんと6年生の吉寄さんがしてくれました。松山さんは、「1学期に頑張ったことは学習です。3年生にから理科・社会・総合などの教科が始まったので追い付けるように自分のノートに書いて頑張りました。運動会では、台風の目を練習したけど最下位でした。だけど、みんなと協力してきれいに回れるようになったのでよかったです。(中略)2学期はいろんなことにチャレンジしていきたいと思います。」と発表し、6年生の吉寄さんは、「ぼくは、1学期のはじめに『リーダー的存在になる』という目標を立て頑張りと、企画委員長になりました。小学校最後の運動会では、応援団に立候補し、副団長になり、最後の運動会を楽しもうと堂々と、最高の演舞ができ、白団が優勝することができました。これらのことから、ぼくは帯西レッドとイエローの心が伸びました。今年の夏休みは、コロナ禍から抜け出したので、やりたいことリストを家族で作り、たくさんのお話を五感で感じ、小学校生活最後の夏休みを楽しみたいです。」と発表してくれました(内容は紙面の都合上編集しています)。

1学期お世話になりました

今日無事に、1学期の終業式を迎えることができました。これもひとえに保護者の皆様、地域の皆様、帯山西小学校の子供たちを支えてくださっている全ての皆様のお陰と思っています。脱コロナの舵取りをしながらの教育活動でしたが、皆様に支えて頂きながら、子供たちは、帯西レンジャーと共に活躍ながら、確実な成長をしています。また2学期に、元気な姿を見せてくれると思います。

1学期は、たいへんお世話になり、ありがとうございました。

